



伊豆市

議会だより

No.6

発行：伊豆市議会 <http://www.city.izu.shizuoka.jp> 編集：議会報編集特別委員会
〒410-3292 静岡県伊豆市市山550 TEL 0558-85-2606 2005.11.15発行



元気いっぱい！TO-JI博覧会

「伊豆市まるごとTO-JI博覧会」の個別プログラム「水で動 陸で静」をふれっぷで開催。
フィナーレの水中フラダンスでは、参加者全員ハクを被り、元気一杯に体を動かしました。

目次

CONTENTS

■ 9月定例会の概要	2
■ 市長行政報告	4
■ 市内指定管理者制度の導入、アスベスト、議員研修 ..	5
■ 一般質問	6
■ 各委員会行政視察報告	10
■ 市議会傍聴記・編集後記	12

9月定例会

会期 平成17年9月8日～29日（22日間）

収入・支出は問題なく行われたのか審査・確認

平成16年度決算認定

一般会計歳出総額 185億808万5千円

9月定例会では、主に平成16年度一般会計・特別会計決算の認定審査を行いました。

各常任委員会に付託された議案

は、最終日の常任委員長報告のあと、質疑、討論を行い全てが可決認定されました。

各常任委員会での 審議内容の一部を紹介

一般会計

質 伊豆市振興公社公益事業補助金の内容は、人件費と聞いていたが、1200万円から1238万円になぜ増えたのか。

答 菊花展など、公社の事業量の増加によつて増額した。

質 有害鳥獣駆除事業費600万円で効果があったのか。

答 里に在る有害鳥獣は、退治できないう状況です。しかし「山の方は相当減ってきている」と猟友会から聞いています。里の方では鉄砲は使用できず、今後は防止金網などで対策を考えていきたい。

質 学校給食に、地産地消で安心

安全な食材を提供していくことが必要だと思うが。

答 米や野菜類が主だが、観光経済部と連携をとり、近々検討会を開く予定。

質 幼稚園の臨時職員について、現場では「子供の発達には継続性が大切だが、臨時は1年契約でその保障がない。正規職員と同じ責任、同じ仕事なのに賃金格差があり、やりづらい」と改善の要望があるが。

答 幼稚園の臨時職員は、財政担当と相談をして単価を上げている。それでも賃金に差があるのは事実。ただ、将来園児が減ると教諭が余るのではないかと問われると、歯がゆさがある。

質 今後の各種団体への補助金のあり方について、それぞれの事業の評価をしていくことが求められるが。

答 団体から、それぞれの事業計画を提出し、そしてその結果を自己評価してもらおう。市はそれを見ながら、より良い補助制度へと検討していきたい。

歳入	市税	地方交付税	国庫支出金	県支出金	繰入金	分担金及び負担金	市債	使用料その他
	48.2億	53.7億	17.1億	10.5億	15.6億	2.9億	24.7億	30.3億
	23.7%	26.5%	8.4%	5.2%	7.7%	1.4%	12.2%	14.9%

歳入・歳出の主な内訳



歳出	総務	民生	教育	土木	衛生	災害復旧	消防	農林水産	商工	議会	公債費	その他
	30.0億	28.9億	22.0億	20.7億	12.5億	10.8億	9.6億	9.2億	5.8億	2.0億	30.7億	2.8億
	16.2%	15.6%	11.9%	11.2%	6.8%	5.8%	5.2%	5.0%	3.1%	1.1%	16.6%	1.5%

公共用地取得事業特別会計

歳出総額1億3731万円 「5億円を超える市有地の有効活用を」という監査委員の意見書について、当局から代替地を取得目的にしているが、市内業者の営業拡張に活用するなど、他の利用も考えていきたいとの話しがありました。

国民健康保険特別会計

歳出総額39億8382万円 保険料の滞納対策を求めましたが、徴収特別班など組織づくりの具体化を検討していく方向です。

老人保健特別会計

歳出総額43億7640万円 健康なお年寄りを大勢にすることや、無駄な受診を防止する対策への意見がありました。

介護保険特別会計

歳出総額23億2336万円 前年度に比べて、30%大幅増ですが合併によって15年度分の支払が16年度になったため、単純に大幅増とはいえません。低所得者への市独自の保険料減免を評価しつつ、

いくら払えるかでサービスを選んでいる場合があり、利用料の減免を求める意見がありました。

自然公園特別会計

歳出総額5億9599万円 当会計は、虹の郷及び達磨山キャンプ場の運営費を支出していますが、一般会計からの繰入金8600万円は問題である、との指摘がありました。

湯の国会館事業特別会計

歳出総額8129万円 温泉施設の老朽化という問題を抱えています。営業的にはがんばっています。

昭和の森会館事業特別会計

歳出総額5331万円 うち1500万円は一般会計等からの補填です。

天城温泉会館事業特別会計

歳出総額7390万円 内1600万円は一般会計からの補填です。文化施設であるホールの維持費も負担していますが、温泉の営業は苦しいです。

国民宿舍特別会計

土肥ふじみ荘事業特別会計は、収益1億2051万円、経常損失1528万円。木太刀荘事業特別会計は、収益1億7020万円、経常利益246万円。

天城ふるさと広場事業特別会計

支出総額 9293万円 ゴルフ場が旧町時代よりプラスとなった理由は、職員削減により人件費が減額となった事によります。

天城北道路用地取得特別会計

歳出総額3億5199万円 主な内訳として用地取得事業費です。

簡易水道事業特別会計

歳出総額5630万円 昨年台風で流失した山田川の施設は復旧しました。

下水道事業特別会計

歳出総額17億7806万円 中伊豆地区においては全体計画の中で白岩処理場も二系列目ができましたが、今後は合併浄化槽などの整備も検討していきます。

農業集落排水事業特別会計

歳出総額2億4887万円 利用状況は、計画排水戸数を上回る普及率で、地区によっては処理能力が一杯となっています。

上水道事業会計

支出総額は、5億9267万円で利益は税抜き後35万円 17年度予算で三地区（修・中・天）の管を接続し、一本化にするための工事を19年度から実施する予定です。水道料金の統一は、土肥地区の価格が安価ですので、別個に考えることになると思います。

温泉事業特別会計

支出総額は、6440万円 温泉事業は地元土肥の皆さんに組合をつくって頂き、事業を引き継ぐ方が良いのではないかとの意見がありました。

条例関係

伊豆市心身障害者小規模授産所

条例の一部改正

施設を指定管理者制度に移行するために必要な条例の改正として、入退所の条件や、入所者の損害賠償についての条文の改正、追加が議決されました。

伊豆市国民宿舎の設置に関する

条例と使用料条例の廃止

土肥ふじみ荘と木太刀荘を売却または廃止に向けて条例を廃止しました。両国民宿舎は公募により売却の予定です。

伊豆市教育振興審議会条例の制定

市教育委員会の諮問に応じ、教育課題に関する事項について調査審議するため、新しく審議会を置くことが決まりました。

他3条例の改正が議決されました。

人事案件

伊豆市監査委員に鈴木健範氏（修善寺）が選任同意されました。

住みよい伊豆市をめざして

9月議会初日に、市長から行政報告がありました。主なものを紹介します。

市営施設の運営管理

4月27日に市営施設運営委員長より、平成16年11月5日付で諮問していました、国民宿舎木太刀荘・土肥ふじみ荘・中伊豆荘及び、虹の郷の市営施設の管理運営について答申

がありました。虹の郷については指定管理者制度を活用し、3つの国民宿舎にあつては、売却もしくは廃止の方向で、担当部へ細部について詰めるよう指示しました。



売却の方針が決定した国民宿舎木太刀荘

天城北道路関係

本線の本立野トンネル工事は予定どおり進んでおり、8月末現在、約460メートルまで掘削が進んだとのことであります。また、大平インターより南側の第2工区の用地買収を行うため、8月末から4日間にわたって地権者への説明会が行われました。さらに、市が施工す

るアクセス道路については、新しい橋の建設に係る河川協議を継続し、実施してまいりました。調整作業も終盤を迎え、今月中にも本申請が提出されるものと思いますが、河川協議が整い次第、市としては速やかに下部工（橋脚）の建設に着手したいと考えております。

県土木が施工する合併支援重点道路整備事業

昨年度着手した日向地区については路線が決まり、本年度は稲の刈取りが済み次第幅杭の設置等、用地買収の準備が進められる予定です。また、本年度、この合併支援重点道路整備事業について、伊豆市への追加配分がありましたので、同路線の矢熊今垂地区を要望し認可されました。

天城北道路や合併支援道路整備に併せ、市

としても市域の一体化促進に寄与する道路整備の必要に迫られております。今後の整備は、優先順位を定め、計画的に進める必要があることから、去る7月28日に「天城北道路及び伊豆市幹線道路網整備促進期成同盟会」を立ち上げ、官民協働で整備促進を図ることいたしました。

大丈夫か？ アスベスト

現在、アスベストの健康被害が社会問題となっています。市では公共施設の調査を行いましたのでお知らせいたします。市内の公共施設では石綿セメント板などの天井材として、何らかの形でアスベストが使用されていた36施設のうち、飛散系アスベストの疑いのあるものは10施設あり、その検査の結果は表のとおりです。

NO.	施設名称	飛散アスベストの有・無
1	修善寺総合会館	調査中
2	土肥南小学校	無
3	土肥中学校	無
4	修善寺中学校	無
5	修善寺体育館	無
6	土肥支所	無
7	伊豆市清掃センター	無
8	中豆斎場	無
9	天城農村改善センター	調査中
10	天城ふるさと広場(機関車)	調査中

静岡県市町村議会議員研修会 8月31日、静岡市グランシップで開催

「観光振興を通じた地域活性化」と題して榊原 信氏の講演が行われました。

「静岡県は、日本一の富士山を世界遺産に登録して、世界にPRを。そのために何をすべきか。」と切り出し、日本の観光政策に足りないものは現状分析や観光統計などで、外国の先進地の事例を挙げ説明してくれました。また、観光の発展には、地域の人が心を合わせていくことが重要であり、それが地域活性化に繋がると話されました。



デイズニールランドのように、リピーター客を増やすことが大切であると語る額賀氏

どうなる公営施設の運営

指定管理者制度の導入

伊豆市には福祉センター、学校運動施設、公民館、観光施設など合計すると156箇所の公共施設があります。現在、それら施設の管理や運営に、指定管理者制度を導入することの検討を行っております。この制度の導入で、より効率の良い運営が見込める施設については、積極的な導入を進めていかなければなりません。また、学校や上下水道など、現時点ではまだ導入は難しいと思われる施設もあります。

市の方針として指定管理者制度の導入を決めている施設としては、虹の郷、中伊豆温水プール、天城温泉プール、心身障害者小規模授産所があります。導入の準備をしているものとして、湯の国会館、天城温泉会館、観光会館、修善寺総合会館、市の所有になっている公民館、集会場、コミュニティセンターなどがあります。

選定の方法としては、原則として公募して選定委員会で決めることになっていますが、集会場など地域に管理を任せるのが最も良いと判断した場合などには、公募によらずに選定する場合があります。

指定管理者制度の導入決定施設

修善寺虹の郷



中伊豆温水プール



天城温泉プール



心身障害者
小規模授産所





一般質問

内容については、要旨を掲載しています。

紙面の都合上、一議員一質問です。詳しくお知りになりたい方は、各図書館・議会事務局で会議録をご覧ください。

市職員の民間派遣研修は？

民間派遣の計画はなし

質問

これまで国民宿舎などの市営施設で、市職員がサービス関係の現場を経験することができたことは、役所での仕事の取り組み方や、応対、やる気などの面でプラスの効果があつたと思います。これからもそのような機会を作るため、市営施設を残すとか、他団体やNPOなどへの派遣を考えていませんか。

鈴木基文議員

答弁

市の職員が、現在の事務従事だけでなく、他のサービス施設で接客体験をするということは大変良いことだと思います。職員の研修の場としては、県で行っている各種研修などがありますが、現在のところ他団体や民間への派遣は考えておりません。

下水道接続率の向上策は？

市民への啓発、普及に努めます

質問

下水道接続を全市に網羅して水洗化率、接続率100%を目指す事は、観光重視及び衛生面を考慮した住みよい町づくりを推進する当市にとって最重要課題の一つである。しかし、それには解決しなければならない多くの問題もある。下水道接続率向上を目指しての取り組みについて市長の考えを問う。

木内一郎議員

答弁

下水道接続は各戸の地形等、事情により多額の費用がかかります。接続が伸びない理由として、資金不足や高齢者世帯、家屋の老朽化による改築予定、さらに合併浄化槽設置後、日が浅いなどが上げられます。今後とも市民の下水道に対する理解を深めて頂くための啓発、普及に努めて参ります。ご理解とご協力をお願いいたします。

土肥地区の緊急時の対応は？

当面は現体制で

質問

土肥地区は他に比べ、30分以上の時間差がある。経費削減で職員10名と少なくなり、救急車出動時、火災、救急車が重なった時、対応できないことが現に起きている。軽い患者は簡易な救命装置を施したタクシー活用、緊急時に席を離れても問題のない職員による対応等、安心して生活できるような良策はないか。

関邦夫議員

答弁

重複救急等の場合は消防隊が出動し、応急処置を施し、救急車の到着を待つ体制で、運用している。最も緊急の場合は、ドクターヘリの出動もあります。人員配置については、組合としての人員配置計画もありますので、当面、現状を見守りたい。

体験農園の借地料の見直しは？

近傍地の価格等から妥当

質問

遊休農地を利用した体験農園が下白岩に計画され、整備工事費等として、1億6850万円が承認され、管理組合が運営するのですが、収支計画表の借地料10アール3万円は高いと農業委員会でも指摘されています。自立した運営のためにも借地料を見直しする考えはないのか。

大川 孝議員

答弁

借地料については、施設整備を伴うことや、近傍地の価格等から妥当と考えますが、これが足かせにならないよう収益面の工夫が必要と思います。10月頃には、運営組織の立ち上げを予定しており、今、準備会で事業内容や収支計画等の検討を行なっています。いずれにしても、2〜3年後には自立の方向にもっていく必要があります。

「コミューター空港の実現は？」

伊豆半島全域で検討していく

質問

石川県知事は「伊豆の観光力を高めるためには、小型飛行機が離発着できる飛行場が必要」と述べています。時代のスピード化に対応したコミューター空港の実現は、観光地伊豆の新しい形態を創り出すと共に、防災の基地としての役割もはたすと考えられます。市長の所見と今後の見通しについて伺います。

飯田宣夫議員

答弁

国が進めるビジット・ジャパン・キャンペーンにより、今後東南アジア等から静岡県への観光客の大幅な増加も予想されます。短時間で伊豆へのアクセスができるコミューター空港の実現は、伊豆の観光発展に大きくつながるものと考えています。従って、伊豆半島全域での研究会や協議会を設置し、検討していく事が望ましいと認識しています。

成年後見人制度の普及を！

助成制度を検討

質問

成年後見人制度は、認知症や知的障害などで、判断能力が十分できない人の財産や生活を守る制度です。住宅リフォーム詐欺などの悪質商法契約を取り消したり、本人に代わって財産管理や福祉サービス利用契約もでき、これからの超高齢化社会になくはない制度です。普及に向けて伊豆市の取り組みについて伺います。

杉山 誠議員

答弁

「成年後見人制度」の広報・相談・普及については、来年度改正される介護保険法の中で位置づけられている「地域包括支援センター」が実施していきます。この制度は利用者に多額の費用がかかるため、今後、助成制度を検討していきます。

なぜ通学費の保護者負担増か？

急激な負担増ではなく、少しずつ増で解釈を

質問

平成20年まで、通学費の保護者負担が毎年増の補助制度。菅沼、土肥南小間で今年と平成20年を比較すると、新一年生は、6000円の負担増。少子化で市の補助額が減る傾向なのに、さらに減らして保護者に負担増を求めたのは、前議会で「通学費補助制度は子育て支援、少子化対策にならない」という当局の考えからか。

木村建一議員

答弁

市の補助額については、保護者負担が急激に増えないように、少しずつ減らしていると解釈して頂きたい。通学費補助制度が、必ずしも少子化の歯止めになっていとも思えません。今後も見直しを図りながら、できるだけ補助はしていきたいと考えています。

アスベスト対策は？

↓ **すでに調査・対策を進めています**

質問

①アスベスト対策について、市内の公共施設の調査をしたのか。したのなら、その結果を公表すべきだし、その対応策についてもお聞きしたい。

②公共施設以外については、どのような対応をするのか、お聞きしたい。

飯田正志議員

答弁

①市の施設97箇所中、アスベスト使用施設は36箇所。飛散系アスベスト使用の疑いのある10箇所を精密検査中です。

検査結果が判明し次第、直ちに飛散対策を実施します。

②広報9月号でお知らせしたとおり、相談窓口を本庁の環境衛生課、及び健康増進課に開設しました。

修善寺総合会館の

随意契約は妥当か？

↓ **自治法に従い契約しました**

質問

130万円を超える随意契約は違法です。修善寺総合会館改修工事の監理委託業務399万円を随意契約にしたお考えをお聞きしたい。

同工事の随意契約で基本設計、耐震診断、工事設計が分割発注されていますが、分割発注は発注者側、受注者側にどのようなメリットが考えられますか。

森 良雄議員

答弁

当該業者は改修設計、耐震設計を手がけた業者であり、的確な監理ができるかと判断し、地方自治法施行令167条の2第1項第2号により随意契約としました。

大平の再圃場整備は？

↓ **国・県と協議調整をはかります**

質問

大平地区では当初(8年前)より、再圃場整備によって公共用地を創出し少子化を見越した将来のまちづくりを考えてきました。しかし、8年が経過し圃場整備事業に対する国・県の考え方も変わってきています。本事業を実施するには行政の協力がなければ成り立ちません。そこで圃場整備事業に対する市長のお考えをお伺いします。

酒井勲一議員

答弁

圃場整備事業は、当地区の農業の方向づけに大きな役割を果し地域づくりにも貢献するので、トンネル工事に伴う発生土を活用し現行制度の中で対応可能な事業について、県の指導を仰ぎ、実施に向け地元との理解と協力を頂き、国・県とも協議調整をはかります。

小学校統廃合の計画は？

↓ **教育振興審議会に諮問し検討**

質問

少子化のもたらす影響は急速に広がっています。子供たちの減少に伴い、学校にも運営上さまざまな問題が生じます。それに対応するため、統廃合せざるを得なくなると思っています。しかし、無用な不安や混乱を避けるため、早急に検討委員会を設置し、計画を策定したら良いと思います。

内田勝行議員

答弁

学校がある地区の皆さんは、それぞれの地区の文化の拠点であるとの意識も強く、統合に至るまでには難しい問題が含まれています。児童・生徒数が減ったからといって簡単に統廃合とはいかないことはご承知のとおりです。今後、教育振興審議会への諮問も考慮に入れながら、調査など幅広い意見の集約をしていきたいと考えています。

振興公社に外部から人材登用を!

重要性は認めるが難しい

質問

振興公社に「虹の郷」をはじめ数施設の運営を任せられており、その経営について議論がなされていますが、経営安定の為に有能な人材の発掘が大切であり、民間委託等に、経営の母体を替えて解決するものではないと思う。有能な人材のヘッドハンティングを外部へ求めてでも経営体制の充実を求めます。

三須重治議員

答弁

振興公社に限らず経営に於ける人材の重要性については、おっしゃるとおりです。そのための方法として、外部からの人材の登用は一つの方法ではあると思われませんが、その人材を発掘し登用することは、なかなか難しいと考えます。

住民検診の受診方法は?

来年も集団・個人検診を併用で

質問

今年度の住民検診の受診率の推移や傾向について。また、人口の多い地区では巡回車による検診がなく、個別に指定医療機関への案内がされた様です。市民の声は、各地での巡回検診を望む声、特に高齢者に多いようです。来年度以降の対応について「サービスは高い方へ」の方針を踏まえ、問題点、方向性を伺います。

森嶋正太議員

答弁

16年度の受診者数・受診率はともに向上しました。今年度は県より補助金実施要綱の見直しの指導を受け、集団検診と個別検診を実施しました。検診の見直しに伴い、長時間の拘束や出向いて頂ける医師の確保が困難な事もあります。補助金制度を活用し、来年度も集団・個別検診を併用した実施方法を考えています。

行財政改革推進委員会の設置を!

外部組織立ち上げの準備

質問

合併は行財政改革が主目的だが、旧四町の合併協議会は、合併優遇措置期限内に合併をとの強い思いがあり、当時としては行財政改革よりもむしろ行財政機関の配置分合等が協議されたと聞いております。地方分権による自己決定、自己責任による市政を考える時、第三者機関による仮称「伊豆市行財政改革推進委員会」の設置提案に市長の認識はどうか。

加藤 章議員

答弁

国・県を問わず、行財政を取り巻く環境は依然として厳しく、強力行財政改革を推進していかなければならない状況下にあります。これまで、積極的に行政改革の推進に取り組んできたつもりであります。さらなる改革のため外部組織の立ち上げ準備をしています。

窓口業務時間の延長と職員削減は?

前向きに検討します

質問

①市民の利便性向上のため、市役所窓口の業務時間を早朝、夕刻、休日まで拡大することを提案します。
②市の職員数は、削減計画達成後も市民84人に1人の割合で、旧修善寺町の約100人に1人と比べても多すぎます。削減計画を上乗せする考えはありませんか。

小森勝彦議員

答弁

①窓口業務時間の延長を検討します。問題がなければ実施する、と理解していただけて結構です。
②現在、既に予定以上のペースで削減計画に取り組んでいます。予定期間を短縮及び削減数を上積みできるように取り組めます。

常任委員会の行政視察報告

『合併をしない町宣言と 行財政改革』

福島県矢祭町

〔総務委員会〕

合併をしない町宣言をして有名になった、福島県矢祭町の根本町長に行財政改革をどのように進めてきたのかを、具体的にお聞きすることにより、合併した伊豆市にも参考になることがあると考え、8月17、18日に総員7名で視察研修に行ってきました。

矢祭町は人口6991人、17年度当初予算29億円、財政力指数は0.22です。

最初に町長は、「話題が先行しすぎて中身が何もなかった」と、本音を語ってくれました。「しかし、視察に来る人からの質問や指摘を受け、行財政改革の必要性を感じ、徐々に進める覚悟を決め、偽物が本物になりたいと思った。その中で、行革の焦点は役場内の縄張り意識やポストの維持を打破し、多すぎる嘱託職員の処遇を、どうするかだ

った。職員の削減については、嘱託職

員を34名から6名にし、今まで嘱託職員にやらせていた仕事を、一般職員がするようにした。一般職員は定年退職による自然減だけとし、新たな雇用はしない。結論として合併した方が良かったのか、しなかった方が良かったのか、その結論はこの先何十年か経って見ないと判らないと思う。しかし合併しても、しなくてもその時代の流れの中で、衆知を集めてより良い方法として、選択したことには間違いない。結果は、その結論をどのように受止め10年、20年先のことを考えて、前向きに新しいまちづくりをして行くのが重要だと思う。」と話してくれました。



根本矢祭町長から行財政改革の内容を伺う

『子ども達が元気な村は、 お年寄も元気になる』

長野県南箕輪村他

〔福祉文教委員会〕

10月6、7日、長野県上伊那郡南箕輪(みなみみのわ)村と下伊那郡泰阜(やすおか)村を行政視察した。南箕輪村は、人口1万4171人だが、合併を選択せず自立に向けて財政の健全化を図っている。特別職の報酬減額、収入役の廃止など人件費の構成比を20.4%に削減している。施策にメリハリをつけ子ども達が元気な村は、お年寄りも元気になるというキャッチフレーズのもと、子育て日本一を目指して、種々な支援事業を行っていた。保育料の5%値下げを村の特徴としている。子育てに悩んでいる母親のお手伝いには、子育てアドバイザーを設置、学童クラブには「すくすくはうす」を設立し、4月に竣工したばかりの建物は新鮮で、子ども達の元気な笑顔が印象に残った。

泰阜村は、人口2072人、773世帯の天竜川沿いにある村



子育て日本一を目指して支援事業に取り組む南箕輪村の視察

落である。村の歳入予算は、約20億円、その内、依存財源は、約16億円である。このような状況の中で自立を目指す、それなりの気概と施策が見られた。65歳以上の高齢率は、38.2%であるが、特養の増床よりも在宅福祉を推進している。誰もが老いて死んでいくという事実を認め、誰もが老いを避けることはできない。高齢者の胸の内は、自分の家で安らかな最期を望んでいる。それを考慮して、病气や不安など、何らかの理由により、自宅で生活できない人のために、施設ではなく、限りなく在宅に近い住居として「やすらぎの家」を設立運営していたことが、特に印象に残った。

～ 今後の市政に反映 ～



申込みが殺到している市民農園(立科町)
簡易宿泊施設と農産物

『これからの体験農園』

長野県立科町他

〔観光経済委員会〕

7月8、9日、観光振興について群馬県草津町を、グリーン・ツーリズムについては、長野県立科町、松本市奈川地区の体験農園を視察しました。

草津町の就業構造では、約9割が観光、サービス業です。入込み客数は年間300万人程で安定しています。理由は、歴史、草津節、湯畑効果、ザスパ草津のJ2昇格等にありません。温泉の湧出量は毎

分3万6千リットルで、96℃の源泉と水道水とを熱交換した際にできる「温水」をほとんどの家庭に給湯しています。観光振興策として、年一回議員や各種団体の代表が、東京及び近隣の旅行代理店や企業に対して誘客促進活動を実施しています。また、ホテル等の倒産はほとんどありません。

立科、奈川ともに、グリーン・ツーリズムの振興が、後継者減少による耕作放棄農地の復活の切り札となっています。平成7年の農業調査では、耕作放棄地が前回調査の倍になり、農業生産力が著しく減少するとともに、農村崩壊の危惧さえ叫ばれるようになりました。これまでの生産基盤と生活基盤の維持、保全をするためには、継続的な農業生産活動が必要です。そのために両地区とも、体験農園を交流基盤として整備し、活力を取り戻そうとする施策を実施しています。この体験農園の運営も当初は大変だったようです。伊豆市が現在計画している体験農園も、市税投入なしでの自主運営ができるような、事業体制の確立が求められると痛切に感じました。

『我々の今後に』

大きな教訓』

新潟県長岡市

〔土木水道委員会〕

8月23、24日に昨年の中越大震災の被災状況と復旧対策について、新潟県長岡市へ視察研修を行いました。

まず、市庁舎で被災及び復旧対策の概要を説明していただきました。スライド等による説明で、テレビ報道された以上の恐ろしさを実感させられました。特に急傾斜地の土砂崩れ、道路陥没、地盤崩壊など、多種多様な災害は想像を絶するものでした。

被災直後の最重要課題は、被災状況の確認と、避難民の掌握です。集会所やビニールハウスなどの指定避難所以外に避難している人達は行政側が把握しきれず、支援の手が回らなかつたそうです。従って住民からの情報を行政側に発信してもらい、避難所と連絡を取るべきだとの提言がありました。また、日本中からの救援の状況で臨機応変な判断をした応援自治体や、



復旧が依然として進まない災害現場を見つめ、地震の激しさを痛感する

救援物資の搬送に現地の人手不足を考えて、人員まで同伴してくれた自治体の話は、我々の今後に大きな教訓になりました。

説明終了後、被災地現場へ向いました。山古志地区はいまだ入れない状態でしたが、男の子が奇跡的に救出された崩落現場や、急傾斜地の孤立集落等の現場を目の当たりにし、当市と似た中山間地の地震の恐ろしさを感じました。

災害の発生時での議員としての対応、地域とのかかわり方、災害復旧での課題等、研修してきたことを、今後の活動に役立てていきたいと思えます。

議会傍聴へ行ってきました!

「初めての市議会」

三田俊也さん 39歳 (元村)

初めての議会傍聴に行ったのは、自分が今活動しているグリーン・ツーリズムに関する議題があるからと、知り合いに誘われたからです。

議場に入ると、傍聴席には1人しかおらず、途中に入ってきた記者と我々で5名しかいませんでした。多少の寂しさを感じながら議会が始まりました。もっと活発な意見や野次ぐらい飛び交うものだと思っていたからです。また、議員の年齢の高さと(見た目ですが)、女性議員の少なさも目立ったように思いました。内容では、予算のカットや、市の施設の売却または、人員の削減など全体的には、決して明るい内容でないものが多かったように思いました。それと災害の復旧工事など大変な問題を抱えている事も知りました。一昔前なら、建物の建設や施設や道路の整備など、前向きで活発な議会が運営されていたのではないのでしょうか。伊豆市にも早くそんな日が来ることを望みます。市議会関係者の皆さん、がんばってください。

この経験を持ち帰り、周りの皆に伝え、1人でも多くの人に市議会への興味を持っていただきたいです。

● 訂正

前月号のP. 6一般質問(大川孝議員)に下記のとおり誤りがありました。訂正しお詫びいたします。

- ② 原発災害対策 → ㊦ 原発震災対策(見出し)
② 「原発地震」 → ㊦ 「原発震災」(文中)

「改革課題の推進に疑問」

遠藤 忠さん 66歳 (修善寺)

9月中旬、近くの議員の勧めで市議会を傍聴する機会を得ました。当日は議員25名、市側は市長以下14名の出席。ビックリしたことは傍聴者がたった5名だったことです。質問では行政改革への取り組みと、虹の郷についての質疑が印象的でした。ただ質疑の内容は互いの立場を尊重する余りか、突っ込んだやり取りがやや少ない感じがしました。全般的にもっと伊豆市の将来を考えた大胆な提案をし、活発に意見を戦わせてほしいと思いました。

今、国の政治では「改革」が言われない日はありません。しかし、伊豆市の改革への取り組みは相当甘いように思いました。行財政の悪化、過疎・高齢化の急速な進行、若者の減少、勤め先の不足、観光産業の落ち込み等、伊豆市の将来は相当厳しいと思います。こんな時は現状打破のチャレンジ精神が最も大切で、それが最大の武器です。議員さんの改革への情熱と挑戦的な行動を期待するとともに、我々市民の責任も痛感しました。

あなたも議会傍聴をしてみませんか 12月定例会の日程

天城湯ヶ島支所 議場 午前9時30分～

- 12月6日(火) 議案上程、提案理由
8日(木)、9日(金) 一般質問
13日(火) 議案質疑・討論・採決
21日(水) 委員長報告・質疑・討論・採決

※日程は、変更となる場合があります。

編集後記

先頃、文芸賞を静岡県出身の中学三年生、三並夏さんが受賞しました。最近、文学やスポーツ、芸術の世界では、低年齢でその才能を発揮する若者が増えて来ています。

三並さんは、受賞作「平成マシガンズ」原稿用紙百二枚分を、パソコンにて三週間で書き上げたそうです。メール流行りの昨今、自分の描くことを素早く文字に変え、相手に伝える操作を繰り返す、これが大いに役立っていると言われています。

このことはいざ知らず、パソコン教室に向く議員も増え、編集に携わる我ら鈍才十人衆も、乗り遅れまいとパソコンを駆使したり、綿密なチェックを繰り返し、結構頑張っています。そのスピードと表現力は、彼女に到底及ぶものではありませんが、一歩でも近づけるよう感性を磨き、皆さん楽しんで頂ける紙面になるように前進していきたいと思えます。

委員 飯田宜夫